



令和元年6月17日発行 中等新報第11号  
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

## 4, 5年生大学模擬講義 ～ さすがに面白い! ～



同一テーマのプレゼンテーションをパターン別に検証(内田教授の講義「Presentation A to G」)。

6月14日(金)の6, 7限、4, 5年生を対象に「大学模擬講義」を実施しました。今年度お招きした講師の先生方と演題は以下のとおり。生徒は希望別に4分野に分かれ、約90分間、聴講しました。

<b>英語教育学</b>	国際教養大学教授 内田浩樹先生 「Presentation A to G」
<b>社会福祉学</b>	新潟医療福祉大学准教授 青木 茂先生 「社会福祉士の仕事～ソーシャルワーカーってなに?～」
<b>工学</b>	新潟大学工学部教授 阿部和久先生 「かたちと強さ」
<b>薬学</b>	新潟薬科大学教授 久保田隆廣先生 「『薬学』に関するお仕事～薬剤師だけじゃない。薬学知識が役立つ仕事～」

私は、主に内田先生の講義を拝聴しました。内容は、効果的なプレゼンテーション方法について。先生ご自身が巧みな話術で、5分も経たないうちに生徒の関心を釘付けにします。身をもってプレゼンテーションの模範を示してくださっているんだなあと感服しました。

この7月にオーストラリア研修旅行に出かける4年生にとっては、

この上ない学びの場になったことと思います。特に印象に残ったお話を紹介します。

- ・失敗を恐れるな。格好をつける必要はない。カジュアルな感じで、自分が使える語彙の範囲で話せばいい。
- ・スピーキングとライティングは、「表現」という点で同種である。頭の中に浮かんだ日本語を適宜平易なレベルに言い換えることが肝要。例えば、「私は音痴だ」、「私は金槌だ」という文を英語で表現するのに「音痴」「金槌」をそのまま英単語に置き換えようとするのはナンセンス。「歌うのが下手」、「泳ぎがまったくできない」などと頭の中で言い換えること。
- ・うまいプレゼンは参考にならない。下手なものを聴き、「自分ならこうするのに」と問題意識を持つことが大事。

講師の先生方(左から阿部和久先生、青木茂先生、久保田隆廣先生、内田浩樹先生)

